

第 14 回(5 月 21 日 2 限目)

本日の講義内容はテキスト『統計科学の基礎』の 8.2 節の始め(p. 227 の真ん中)から p. 231 の 8 行目までです。テキストと次ページからの内容を確認して学習しレポートを完成してください。

青字部分はテキストに追加し詳しくした部分です。

8.2 1 標本モデルにおける小標本の推測法

小標本での推測論を論述するために、次の補題 8.3 から始める.

補題 8.3 X をポアソン分布 $\mathcal{P}_o(\mu)$ に従う確率変数とする. さらに, 自然数 m に対して χ_m^2 を自由度 m の χ^2 分布に従う確率変数とし, $\chi_0^2 = 0$ とする. このとき, 0 以上の整数 x に対して,

$$P(X \geq x) = 1 - P(\chi_{2x}^2 \geq 2\mu), \quad (8.5)$$

$$P(X \leq x) = P(\chi_{2(x+1)}^2 \geq 2\mu) \quad (8.6)$$

が成り立つ. 上側確率 $P(X \geq x)$ は μ の増加関数であり, 分布関数 $P(X \leq x)$ は μ の減少関数である.

証明 $x = 0$ のとき, (8.5) は自明であるので, x を自然数とする. さらに, $f(x|\mu)$ を (8.1) で与えられた $\mathcal{P}_o(\mu)$ の密度関数とする. このとき, 部分積分により, $\Gamma(x) = (x-1)!$ を使って,

$$\begin{aligned} P(\chi_{2x}^2 \leq 2\mu) &= \frac{1}{2^x \Gamma(x)} \int_0^{2\mu} t^{x-1} e^{-\frac{t}{2}} dt \\ &= \frac{1}{2^x \Gamma(x) \cdot x} \int_0^{2\mu} (t^x)' e^{-\frac{t}{2}} dt \\ &= \frac{1}{2^x \Gamma(x+1)} \int_0^{2\mu} (t^x)' e^{-\frac{t}{2}} dt \\ &= f(x|\mu) + \frac{1}{2^{x+1} \Gamma(x+1)} \int_0^{2\mu} t^x e^{-\frac{t}{2}} dt \\ &= f(x|\mu) + f(x+1|\mu) + \frac{1}{2^{x+2} \Gamma(x+2)} \int_0^{2\mu} t^{x+1} e^{-\frac{t}{2}} dt \end{aligned}$$

を得る. 上式が x の漸化式であることに注目し, 同様の部分積分を無限回行うことにより, 収束する無限級数で表現でき

$$P(\chi_{2x}^2 \leq 2\mu) = \sum_{k=x}^{\infty} f(k|\mu) = P(X \geq x)$$

を導くことができる. ここで (8.5) を得る.

(8.5) より,

$$P(X \leq x) = 1 - P(X > x) = 1 - P(X \geq x+1) = P\left(\chi_{2(x+1)}^2 \geq 2\mu\right)$$

が導かれ、(8.6)を得る．後半の μ に関する単調性は、確率の性質から自明である． \square

X_1, \dots, X_n をポアソン分布 $\mathcal{P}_o(\mu)$ からの無作為標本とする．

$$W \equiv \sum_{i=1}^n X_i$$

とする．このとき、命題 8.2 より、 $W \sim \mathcal{P}_o(n\mu)$ である．

$\mathcal{P}_o(n\mu)$ の確率関数 $f(x|n\mu)$ と与えられた α ($0 < \alpha < 1$) に対して、 $u(\mu, n; \alpha)$ を

$$P(W \geq u(\mu, n; \alpha)) = \sum_{k=u(\mu, n; \alpha)}^{\infty} f(k|n\mu) \leq \alpha$$

を満たす最小の自然数とする．自然数 w に対し $F(w|n\mu) \equiv P\left(\chi_{2(w+1)}^2 \geq 2n\mu\right)$ とおくと、補題 8.3 より、 $F(w|n\mu)$ は μ の減少関数である．条件

$$(c.1) \quad e^{-n\mu} \leq \alpha \quad (\iff \mu \geq -\log(\alpha)/n)$$

が満たされるとする．このとき、

$$P(W \leq \ell(\mu, n; \alpha)) = \sum_{k=0}^{\ell(\mu, n; \alpha)} f(k|n\mu) \leq \alpha \quad (8.7)$$

を満たす最大の整数 $\ell(\mu, n; \alpha)$ が存在する．

ここで、次の定理 8.4 を導くことができる．

定理 8.4 事象の等式

$$\left\{ \omega \mid W(\omega) \geq u(\mu, n; \alpha) \right\} = \left\{ \omega \mid \mu \leq \frac{\chi_{2W(\omega)}^2(1-\alpha)}{2n} \right\} \quad (8.8)$$

が成り立つ。ただし、 $\chi_0^2(\alpha) = 0$ 、自然数 m に対して $\chi_m^2(\alpha)$ を χ_m^2 の上側 $100\alpha\%$ 点とする。

条件 (c.1) の下で、事象の等式

$$\left\{ \omega \mid W(\omega) \leq \ell(\mu, n; \alpha) \right\} = \left\{ \omega \mid \mu \geq \frac{\chi_{2(W(\omega)+1)}^2(\alpha)}{2n} \right\} \quad (8.9)$$

が成り立つ。

証明 $Y(\omega) \equiv \chi_{2W(\omega)}^2(1-\alpha)/(2n)$ とする。このとき、 $Y(\cdot)$ は Ω 上の実数値関数で、(8.8) を示せば、定義 2.6 を満たすことが解り、 Y は確率変数となる。 A, B を

$$A \equiv \left\{ \omega \mid W(\omega) < u(\mu, n; \alpha) \right\}, \quad B \equiv \left\{ \omega \mid \mu > \frac{\chi_{2W(\omega)}^2(1-\alpha)}{2n} \right\}$$

で定義する。任意の $\omega \in A$ に対して、 $w \equiv W(\omega)$ とする。このとき、

$$w < u(\mu, n; \alpha) \quad (8.10)$$

が成り立つ。補題 8.3 の (8.5) より、(8.10) は

$$\begin{aligned} 1 - P(\chi_{2w}^2 \geq 2n\mu) &= \sum_{j=w}^{\infty} f(j|n\mu) > \alpha \\ \iff P(\chi_{2w}^2 \geq \chi_{2w}^2(1-\alpha)) &= 1 - \alpha > P(\chi_{2w}^2 \geq 2n\mu) \end{aligned}$$

と同値である。これにより、上式は

$$\chi_{2w}^2(1-\alpha) < 2n\mu \iff \mu > \frac{\chi_{2w}^2(1-\alpha)}{2n}$$

と同値である。以上により、 $\omega \in A \iff \omega \in B$ が示された。これは $A = B$ である。この両辺の補事象をとることにより、(8.8) を得る。

次に (8.9) を導く. (c.1) が成り立たなければ, (8.7) 式の右側の不等式を満たす $\ell(\mu, n; \alpha)$ は存在しない.

$$C \equiv \left\{ \omega \mid W(\omega) > \ell(\mu, n; \alpha) \right\}, \quad D \equiv \left\{ \omega \mid \mu < \frac{\chi_{2(W(\omega)+1)}^2(\alpha)}{2n} \right\}$$

とする. 任意の $\omega \in C$ に対して, $w \equiv W(\omega)$ とする. このとき,

$$w > \ell(\mu, n; \alpha) \tag{8.11}$$

が成り立つ. 補題 8.3 の (8.6) より, (8.11) は

$$P\left(\chi_{2(w+1)}^2 \geq 2n\mu\right) = \sum_{j=0}^w f(j|n\mu) > \alpha$$

と同値である. 上式は

$$\chi_{2(w+1)}^2(\alpha) > 2n\mu \iff \mu < \frac{\chi_{2(w+1)}^2(\alpha)}{2n}$$

と同値である.

以上により, $C = D$ である. ここで, 両辺の補事象をとることにより, (8.9) を得る. □

定理 8.4 より, 系 8.5 を得る.

系 8.5 $0 < \mu$ に対して,

$$P\left(\frac{\chi_{2W}^2(1-\alpha)}{2n} \geq \mu\right) = P(W \geq u(\mu, n; \alpha)) \leq \alpha \quad (8.12)$$

が成り立ち, 条件 (c.1) の下で

$$P\left(\frac{\chi_{2(W+1)}^2(\alpha)}{2n} \leq \mu\right) = P(W \leq \ell(\mu, n; \alpha)) \leq \alpha \quad (8.13)$$

が成り立つ. □

$$A \equiv \left\{ \frac{\chi_{2W}^2(1-\frac{\alpha}{2})}{2n} \geq \mu \right\}, \quad B \equiv \left\{ \frac{\chi_{2(W+1)}^2(\frac{\alpha}{2})}{2n} \leq \mu \right\}$$

とおくと, $\alpha/2 < 0.5$ であるので, (8.12), (8.13) より, $A \cap B = \emptyset$ となり

$$P(A \cup B) = P(A) + P(B) \leq \alpha \quad (8.14)$$

を得る. 以上により, 次の信頼区間を得る.

[1] 正確に保守的な信頼区間; 正則条件

$$(c.2) \quad e^{-n\mu} \leq \alpha/2$$

を仮定する. このとき, 信頼係数 $1 - \alpha$ の正確に保守的な信頼区間は,

$$\frac{\chi_{2W}^2(1-\frac{\alpha}{2})}{2n} < \mu < \frac{\chi_{2(W+1)}^2(\frac{\alpha}{2})}{2n}$$

で与えられる. □